

大会挨拶

早稲田大学
バドミントン部々長 河村秀平



早慶バドミントン定期戦は第19回を迎えることになった。確かに長い交際であってその間両校間の親睦の実は十分に挙げられて誠にうれしいことです。

慶応義塾大学バドミントン部は創部30周年を目前に控えていると伺っていますので同様に早稲田大学バドミントン部は創立20周年の直前というわけです。私はこの定期戦の第2回に部長代理として参加し今日に至りましたが、この10年の差というか、当時の早稲田は慶応の胸を借りて今日を築いて参りましたが、その目標の壁を押しのことの難しさは全く言語に表現出来るものではありません。

慶応義塾大学バドミントン部は幾多の栄光に輝き、優秀な成績と誇るに足る先輩団を持っていて、栄光よ再びと復興の意気を推進されていることを十分に感じます。もう一歩も二歩もと頑張っている早稲田大学バドミントン部は、共に新進気鋭の意気と初心に立戻って立上るべきだと考えます。

この定期戦は日本の覇権の動向を示す先陣として存在の意味を持たなくてはいけない。その意味に於て両校の出場者も関係者も挙げて本大会を盛り上げるよう意気を示してほしいものであります。

今や世情の進展も激動の渦に在り、我々はこの時に当りスポーツマンシップを昂揚して進路を誤らないよう自分自身を鍛えなくてはなりません。両校の準備も十分に出来ていることと存じます。悔なき熱戦を展開してこの定期戦を誇示しようではありませんか。

大会挨拶

慶応義塾大学体育会
バドミントン部々長 平良

親しい兄弟である早稲田大学のチームを迎えて早慶定期戦を迎えることをお祝いたします。

親しい兄弟とはいえ、この数年間の実力の差は如何ともし難いものがあり、公正に行われるスポーツの世界では結果において非情なものとなることがあり得ると思われ、体力と技に加えた精神力がその幾分かをカバーして堂々たる試合に終了していただきたい。そして敗れることがあったにしても、一つ一つのゲームを通じて、お互いに優れた技術を吸収し、遠からずしてこの早慶対校戦が日本バドミントン試合の最高峰をなすものに行きたいと思う。

試合に出場する機会をえた選手諸君は、二つの大学の長い歴史と、二つのバドミントン部の伝統の上に立って、先輩の期待や、多くの出場機会を与えられない同僚・後輩の支えの上になつて、晴れの舞台で両校を代表するものを自覚して、紳士淑女としての礼儀正しい試合を展開していただきたいと思う。

終りに、絶えず熱心な激励、御指導を下さっている河村部長、両校OB・OGのみなさんに御礼を申し上げると共に、今後とも変らない御援助を御願ひしてあいさつとする。



監督挨拶

稲田 大 学 福 井 正 康
バドミントン部監督



今春、杉本、武岡、佐倉等の強力なメンバーが卒業したあとの春季リーグ戦では、矢張り総合的戦力が弱体化し、ここ数シーズン確保していた3位の座を日体大にゆずる破目となった。幸い、リーグ戦では不調のボン底にあった3年二上がさる6月の関東学生選手権では決勝へ進み、部全体に明かるさが戻ってきている。また主将今井、副将及川が依然として安定したプレーをみせているのが心強い。

女子部では今春矢部監督が新たに就任し、新潟中央高から新人見田を加えて、久し振りに2年南場を中心としたメンバーが揃い、いい試合が出来そうである。さて7月札幌での東日本学生選手権は、早大は試験の為参加出来なかったが慶応大学は鈴木君、上野君等が活躍したときいている。

慶応大学に対するこの出足の遅れと、7月の練習不足とを8月の高岡合宿で十分鍛えなおして、勇躍日吉の丘へ出向きたい。

慶応大学選手諸君

早慶戦らしく堂々と一戦を交えよう。

早慶戦らしく愉快に一献汲みかわそう。

監督挨拶

慶応義塾大学体育会
バドミントン部監督 宮 永 武 司



本年も伝統の定期戦を迎えることとなりましたが、昨年の早稲田記念会堂での完敗をこの一年じっと耐え、塾の本拠地日吉で精一杯の努力の結果を存分に発揮したいと張切っています。春季リーグ戦、関東学生選手権等での早稲田の素晴らしい活躍ぶりを実にたのしく拝見し、日頃の並々ならぬ練習の姿が思い浮びます。我ら塾も例年より多くの新入生を迎え戦力はむしろ昨年より強化され鈴木主将以下全員一丸となって堂々と闘う準備は完了いたしました。いずれにしてもこの定期戦を踏台にして若き力の台頭を期している塾にとって極めて大事な大会ですので、一戦一戦、一球一球に魂をこめて頑張ります。

最後に両校OB、現役全員の努力で日本バドミントン会発展のために力を結集しようではありませんか。

早慶戦によせて

早稲田大学商学部32年卒 林 治 美

早慶バドミントン定期戦も、もう19回になりましたか。

勤務地の都合で、卒業後の様子は、新聞或は早稲田羽球でしか知ることが出来ませんが、随分と盛大になり、喜んでおります。

10数年前のことで、種々と教示して下さいました諸先輩、友人も、もう40前後のロマンズプレー。中のお一人、慶応の玉井さんは、お元気でしようね。日頃なかなかラケットも握れない同志、この日ばかりは、年のことも忘れて大いに汗を流したいものです。

当時は、未だ揺籃期で幾つもの想い出が、走馬燈のようによぎって来るもの、大会の成果は別として、事前の準備、段取りに謀殺されたことが、私の早慶戦での最大の想い出と言えるかも知れません。

今年も、我が母校早大の勝利でしょうが、それ以上に、過去の名勝負に負けない、且つ将来のより一層の発展の礎石となるような熱戦を、早慶両校が繰広げられんことを望んでいます。

早慶定期戦によせて

慶応義塾大学経済学部32年卒 頴 川 博 志

猛暑の中を合宿で一致団結して励んだ成果を秋の早慶定期戦で思い切りブツブツケ合う。現代風に表現すれば、若い人達はカッコよさを好むが、凡そバドミントンの試合は之と縁遠い感じはするが逆に又最もカッコよいとも言える。

汗みどろの試合中の選手諸君の顔付き、あの真剣な眼差し、此のフイリングが理解できるのは、体育会でラケットを握った経験者のみか感ずるものであろう。

更には野球とは異なるが、早慶戦の持つ独特な雰囲気、烈々たる闘志を秘めてコートで激しくぶつかり合う時、リーグ戦のそれとは異質のものであり、早稲田、慶応両校の人間のみしか味わう事の出来ない素晴らしい戦いだ。

大学に於るスポーツが、スパルタ式の運動部活動からクラブ組織でのスポーツに移行しつつある今日、進んで体育会活動の中に飛び込み、思う存分自己に挑戦している現役陣は、寧ろ現代の花形という過言ではなからう。

早慶定期戦の戦績は慶応OBには誠に近年不満足であるにも不拘、毎年この日が来ると今年こそは何年振りかで打倒早稲田の念願がかなうのではないかと思いつつ応援に行くのである。

監督以下部員が一丸となって持てる全てを發揮し、若さを謳歌出来る事こそ、現役諸兄弟の特権であり、今日の試合でもそれが充分に示される事を期待して止まない。

早慶定期戦によせて

早稲田大学政経学部39年卒 安松良之

私が現役の頃は、年に3回の早慶戦があった(リーグ戦を含めて)。それが最近では1回になったと風の便りに聞く。誠に残念なことである。それだけに現役・OB共にこの9月の定期戦は最も待ち望んでいるものと思います。

私は早慶定期戦と云えば、良い思い出が一つもない。残念で悔しいことのみである。というのは、私の現役時代(第9回～第12回)は、慶応が常に勝利を収め美酒に酔っていた最後の時代であったし、早稲田にとっては慶応の伝統の力の前にも一つ力が及ばず苦汁を味わわれていた。これも又最後の時代であった。私が卒業後、早慶の勝者と敗者の立場が入れ替り今回に至っているが良き昔を知る慶応OBにとっては、誠に歯がゆい思いがするに違いない。だが今年も又我が早稲田の勝利は動かし難いものと信ずる。連勝記録を更に延ばし、対戦成績でも慶応を上廻る日も遠くないことだろう。

OB戦に於いても同様である。私は現役時代の敗北を恥じて、なるべくOB戦に出ないようになっている。本音は出たいのである。であるがOBも数が増えレベルアップしたので出られないのである(現役より厳選され、精鋭が揃うといううわさがある)

最後に早慶両校選手の活躍を心から期待して居ります。OB連中も、日頃の運動不足を解消するべく張り切り切って一生懸命個性を活かし、体力に応じ頑張ります。

早慶戦寸景

慶応義塾大学経済学部39年卒 井上洋之助

早慶戦。それはOBにとつて、現役の元氣な姿を見、自分でプレーをしてみても気持ちと身体のアンバランスをつくづくと感じさせられる悲しむべき日でもあります。

気はあせれども身体は動かさず。往年の名選手も今や中年太りの迷選手となり、多彩なプレーをコートの上にくりひろげます。

早慶戦。それは年に一度、早慶両校のOBが旧交を温める楽しい日です。

会うとお互いに自分の事は棚にあげ、相手の身体の線のくずれた事を云いあい、自分が如何にスपोर्टであるかを云いはる楽しい挨拶が始まります。(もつとも、他の人から見れば皆さん同じように太って見えますが。)

さて、いよいよ試合も近づき、きつい短パンを無理にはき、久し振りにラケットを握り喜々として練習を始めます。疲れないよう軽く肩ならしをして本番に備えます。

試合が始まると吹野会長の恐い目が光っているので一瞬も気を抜く事ができません。コートサイドからは遠慮のない声援やヤジが飛んできます。最初のうちは応援に応え、身体も軽くコート狭しと動いています。段々とアゴがでてきて、学生時代つちかった精神力で体力の衰えをカバーし、2セットの責任を無事果します。

栄冠の陰に涙あり。OB戦の陰には一週間痛む身体をさするOBの姿があります。今年その痛みに耐え、日吉の丘に来ていただいた早稲田の方に、現役の御恩返しをしたいと思っています。それではコートで会えるのを楽しみにしています。

高校メンバー

早稲田大学高等学院メンバー

1	主 将	桑 中	山 通	郎 哲	3 年	開 進	第三中学出身
2	主 副 将	酒 橋	西 寄	元 正	3 年	和 歌 山 大 学 付 属 中 学 出 身	開 進 第三中学出身
3	副 将	福 菊	本 士	司 洋	2 年	荏 原 第 三 六 中 学 出 身	尾 山 台 东 中 学 出 身
4	选 手	村 西	池 松	一 章	2 年	小 金 井 立 本 太 中 学 出 身	浦 和 市 立 本 太 中 学 出 身
5		“	“	規 欧	2 年	駒 沢 濤 段 山 九 鳥	駒 沢 濤 段 山 九 鳥
6		“	“	勝 勇	2 年		
7		“	“		2 年		
8		“	“		2 年		
9		“	“		2 年		
10		“	“		2 年		
11		“	“		2 年		

主将抱負

早稲田大学高等学院
バドミントン同好会主将

桑 山 通 郎

今年もまた早慶戦を迎えました。我々高校戦は第9回を数え、結果は慶応の6連勝、早稲田の2連勝となっています。ちょうど、私が1年生の時連敗にストロップをかけ、それ以来連勝しているわけです。だから、今回も勝って連勝を続け、私の早慶戦経験を勝ちで終りたいと思います。

また、慶応とは1年に1回しか試合することがありません。それを考えても、思いっ切りプレイして良い試合をしなければならぬ気がします。今日この早慶戦では、今までの練習の成果を充分発揮して、高校生らしい若々しいプレイをしたいと思います。

代返と 試験の身代りだけは できません!!

印刷とコピーのことなら当社の充実した設備と
すぐれた技術におまかせ下さい。
あなたの日頃の成果を、ご満足いただけるよう
ビジネスアライズいたします。

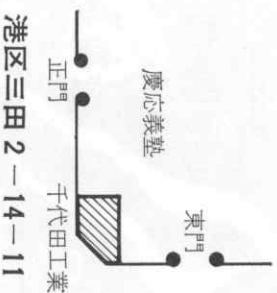


卒論・ノート・資料・文献等の

ゼロックス・コピー・タイフ・印刷・マイクロ写真

複写センター

千代田工業株式会社
Phone: 453-8876(代)



港区三田 2-14-11

高校メンバ—

慶応義塾高等学校メンバー

1	主 将	伊 藤	泰 明	3 年	田 園 調 布 中 学 出 身
2	主 副	原 高 橋	義 太 郎	3 年	慶 応 義 塾 普 通 部 出 身
3	副 将	高 棍 田	竜 敏 夫	3 年	中 野 第 八 中 学 部 出 身
4	選 手	清 山 水	政 敏	2 年	慶 応 義 塾 普 通 部 出 身
5	"	山 室 上	保 明	2 年	慶 応 義 塾 中 等 部 出 身
6	"	井 場 島	聡 一 郎	2 年	山 梨 大 付 属 中 学 部 出 身
7	"	飯 田	真 一 修	2 年	慶 応 義 塾 中 等 部 出 身
8	"	飯 田	真 一 修	2 年	山 梨 大 付 属 中 学 部 出 身
9	"	飯 田	真 一 修	2 年	慶 応 義 塾 普 通 部 出 身
10	"	飯 田	真 一 修	1 年	慶 応 義 塾 普 通 部 出 身

主 将 抱 負

慶 応 義 塾 体 育 会
バドミントン部 高校主将

伊 藤 泰

早慶バドミントン定期戦の高校戦も9回目、うち6勝2敗。といってもこの2年連敗、ここで記録をストップし自分の高校生活3年中、唯一の白星を残したいと思います。当方現部員15名。鈴木ジュナのもと、厳格な中にもなごやかムードのうちに練習を行っています。この夏は合宿を2回行い、年巧序列を問わず実力本位で代表を決定する為、3年も2年に拍車をかけられ、気迫充分。夏の猛練習に残った精鋭は、きっと学院の方々にとって不足はないことと思います。

他のスポーツにも見られる様、学園スポーツは特に大学等において職業化、我々高校生はその特権、若さと純粋さをもって試合に臨もうではありませんか。学院の皆様、どうぞ宜しくお願いします。

つくだ煮・御海茗

味 伝 統 の 味
心 にか みに む べ ば
全 新 橋 玉 末 夜

港区新橋1丁目 電話(571)7225・7226・2474

東京駅名店街・国電浅草橋駅・渋谷東横のれん街
錦糸町駅ビル地階・新宿駅ビル地下2階・小田急のれん街
川崎駅ビル地階・蒲田駅ビル西館地階・羽田空港国内線待合室
三越（日本橋・銀座・池袋）新宿二幸名店街



早稲田大学メンバー

部	長	河村	秀平	早稲田大学教授		
監	督	福井	正康	昭和28年商学部卒		
コ	子	塚関	栄一	昭和38年商学部卒		
	一		誠	昭和43年教育学部卒		
	”					
1	主	井	茂	社会学部	4年	浦和西高出身
2	務	井	憲	教育学部	4年	川越高出身
3	副	川	真	教育学部	4年	仙台商高出身
4	選	田		商工学部	4年	早大学院出身
5	”	竹	友	理工学部	4年	池田高出身
6	”	桐	敏	教育学部	4年	早大学院出身
7	”	加	高	教育学部	3年	高岡商高出身
8	”	二	松	政経学部	3年	早大学院出身
9	”	大	本	教育学部	3年	御殿場南高出身
10	”	本	土	教育学部	2年	新潟高出身
11	”	土	岩	理工学部	2年	札幌西高出身
12	”	江	下	理工学部	2年	緑ヶ丘高出身
13	”	木	村	教育学部	2年	鴨浜高出身
14	”	保	藤	理工学部	1年	正強高出身
15	”	大	加	理工学部	1年	早大学院出身
16	”	加	佐	理工学部	1年	早大学院出身
17	”	野	平	法経学部	1年	富士宮北高出身
18	”	上	岡	政経学部	1年	南葛飾高出身
19	”	三	森	政経学部	1年	東北学院高出身
20	”	門		商学部	1年	姫路西高出身
21	”			文	1年	富山高出身

法学

— この非能率的なるもの —

法学というものは、その中に入りこんでしまおうと気がつかないているが、すこし間を置いて眺めてみると時には甚だ滑稽なことをしている。従来も法律や法学に対する批判や嘲笑は文芸書や非法律家の側からなされてきているが、本書は、法律の訓練を経ており法律に対し該博な知識をもった著者による、真摯な、しかもウキウキとユーモアに富んだ法律批判である。長い歴史をもつ法学界や法曹界においては、法律制度や法学に内蔵される問題に気づきなから、自分たちのギルドの中にとじこもり敢えて欠点を暴露する著書であり、法律家にとっては自戒の書ともいえる。

シーゲル著
西村・平訳
価 780円

鳳 (おとしや) 舎

東京都新宿区大京町31

電話 (351) 1495

主将抱負

早稲田大学 今井茂満
早稲田大学 今井茂満
早稲田大学 今井茂満

今年も第19回早慶バドミントン定期戦を迎える時が来た。1年当時のワクワクした気持は今はなく、それどころか、2年、3年そして4年と早慶戦を迎え、不思議な事に、リーグ戦などは上級生になる程自覚が生れてくるのに対して、早慶戦では序々にやる気が薄れてゆく。これは僕だけの感情だろうか。最近に於ては、対戦成績が示すように、早稲田が慶応より多少優っているが、以前はその逆であった。このように両校の力の差が何年もの間隔をおいて交代するような現象がこれから見られるならば、両校が同レベルに於て入れ代っていくだけで、全体のレベル向上には連がらない。

今はあくまでも早慶戦は踏み台にすべきで、それから飛躍してゆかねばならない。それ故に、早慶戦の勝ち負けは早稲田、慶応各々にとっては重要であるが、両校として考えるならばさして重要ではない。そしていつの日か、秋のシーズンの始まるこの定期戦が他校にも注目され、その1ポイント、1ポイントが、そのシーズンを左右するようになってゆかねばならない。だが両校のレベルがいくら向上しても、早稲田は常に慶応に負けることは許されないのである。

最後に、普段来られない諸先輩方にもこの定期戦で現役の凡てが分ってもらえるよう全力を尽して慶応を打破するつもりです。

黒と銀は 男性のブランド

黒と銀——MGS

男性の朝の儀式、ヒゲソリから始まって、整髪に、ヒフの手入れに、MGSはすっかり生活の中にとけこんでいます。男性がいつもつと身近かに感じるブランド、それが黒と銀のMGSです。



資生堂エムジー5

MGSには70円から28種あります

早稲田大学 女子メンバー

部	長	河村 秀平	早稲田大学教授
監	督	矢部 行一	昭和33年商学部卒
コ	チ	藤伸 治	昭和45年社会科学部卒
1	選	手 南 場 容 子	文学部 2年 新潟中央高出身
2	"	" 見 田 佳 代 子	文学部 1年 "
3	"	" 小 林 由 美 子	文学部 1年 武蔵野高出身
4	"	" 富 岡 弘 美 子	教育学部 1年 横浜共立学園高出身
5	"	" 三 箇 右 子	法学部 1年 高岡高出身

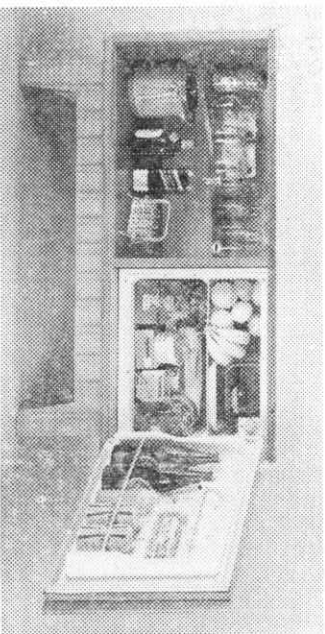
監督挨拶

早稲田大学女子バドミントン部監督 矢部 行一

私が女子監督に就任後、初めての早慶戦であるので、なんとしても勝ちたいと思っています。昨年は、メンバー不足のため、その分も、今年はお返しをしなければなりません。幸にして今年には、新入部員が、見田、小林、富岡、三箇と、近年になく沢山入部し、2年生の南場を中心に、活気ある練習を積んで、それぞれが力をつけ、その目安もつきました。慶応さんも、合宿に、練習に励んでおられることでしようが、わが部も小人数だけに、ガッチリまとまったチームワークで、早慶戦にのぞみたいと思います。大学男子、OB、高校、そして大学女子を合わせた完全勝利を収めるためにも、今年は頑張りたいと思います。

祝 慶早バドミントン定期戦

冷蔵庫が家具に
変わりました



株式会社

トーキー

東京都港区西新橋 3-16-3 (愛宕ビル4F) 電話 431-3512 (直) 432-1587 (代) 3074

慶応義塾大学メンバー

部	長	平	良	慶応義塾大学教授
副	長	森	高	昭和三十八年商学部卒
監	督	宮	昭	昭和三十八年法学部卒
コ	チ	千	和	昭和三十八年
"	"	西	昭	昭和三十八年
"	"	沖	和	昭和三十八年

1	主	將	英	夫	商	部	4	慶応高出身
2	主	務	夫	寛	文	部	3	甲府一高出身
3	副	將	利	三	法	部	4	奈良一条高出身
4	選	手	立	郎	法	部	3	天理高出身
5	"	"	芳	朗	經	部	3	慶応高出身
6	"	"	素	明	濟	部	3	慶応高出身
7	"	"	信	樹	法	部	2	慶応高出身
8	"	"	和	也	工	部	2	国立高出身
9	"	"	孝	幸	商	部	2	九段高出身
10	"	"	隆	久	經	部	2	慶応高出身
11	"	"	由	明	法	部	1	聖光学院高出身
12	"	"	正	浩	法	部	1	大阪茨木高出身
13	"	"	隆	裕	法	部	1	福岡明善高出身
14	"	"	由	利	法	部	1	東海高出身
15	"	"	孝	範	法	部	1	東海高出身
16	"	"	祐	一	工	部	1	時習館高出身
17	"	"	克	已	經	部	1	慶応高出身
18	"	"	治	彦	經	部	1	慶応高出身

女子メンバー

1	選	手	立	子	法	部	4	東京女学館高出身
2	"	"	敏	子	文	部	4	富山中高出身
3	"	"	佐	子	文	部	3	慶応義塾女子高出身
4	"	"	滋	子	文	部	3	慶応義塾女子高出身
5	"	"	洋	子	文	部	3	両国高出身
6	"	"	字	美	工	部	2	慶応義塾女子高出身
7	"	"	裕	子	經	部	1	高松高出身
8	"	"	和	子	濟	部	1	横浜雙葉高出身

主 将 抱 負

慶応義塾体育会
バドミントン部主将

鈴 木 英 夫

昨年の第18回早慶戦においては、早慶戦始まって以来初めて0—15で完敗してしまいました。それ以来我々は二度とこの様な完敗を喫する事のないように、努力を重ねて来たつもりだったが、春季リーグ戦においては2部の5位となり、部創立以来最悪の成績を残してしまつた。それに対して早稲田は一部の上位校として定着し、又今井、及川、二上の諸君は学世界のトップ・プレイヤーとして活躍している。この様な現状を比較してみれば、慶応の不利は明白であるが、しかし我々はもうこれ以上下がることのできない土壇場まで来ている。いわゆる背水の陣を敷いて部員全員が一丸となつて早稲田に当たらであらう。我が部にはかつて『陸の王者』の名に恥じない時代があつた。しかし我々がこの様な過去の栄光をなつかしんでも、その様な懐古趣味からは何も創造することができない。我々が今すべきことは、将来において再び『陸の王者慶応』と呼ばれる時代を作る様努力することである。その足掛りを第19回早慶戦の中に見出したいと思つている。

豊かな経験と最新の技術

産業の発展に貢献する

電機と機械の総合商社

柴 授 褒 章
第12回浪沢賞
アカデミア賞
受賞

製 造 品 目

LDG型 地絡方向継電装置
LEGG型 地絡継電装置
LSG型 集合地絡継電装置
LNA型 ホールム分電盤
L D型 電気火災警報器

取 扱 品 目

特高压、高低压、受変電設備
マイゼール発電設備
照明器具、住宅産業器材
空気調和設備、エレベータ設備
産業工作機械、電材、工具類



光商工株式会社

取締役社長 村田 清

本 社 東京都中央区銀座7—4—14光ビル TEL 573—1351
営業所 大阪・名古屋・シカゴ 工場 茨城

関連会社：光不動産(株)，光舗道(株)，(株)光和製作所

早慶定期戦に寄せて

慶応義塾大学教授
バドミントン部顧問 兵藤昌彦

早慶定期戦。私にとって待望の一つである。勝負は別として、と云うと嘘になる。勿論常時練習を共にしている、又母校が勝った方が良いに決まっている。負けたと云っても、このゲームに負けたのと違って、後味の悪い思いよりむしろ気持の上では心良いものが残るのである。

伝統ある對抗戦に母校の名誉をかけての現役の好ゲームの展開を観るのが楽しみであるそれに次いで女子、高校戦、いずれも大学に劣らぬ熱戦が演ぜられるが、それにも増してのOB戦、往時の名選手の名(迷?)演技が飛び出して、拍手、声援がおこる。

この様に両校の熱ある好プレイは他に見られないのではないかと思う。
ゲーム終了後の懇親会の和気藹々の中に、その日のゲームの講評を聞くのも又楽しいものである。平素御会い出来にくい河村先生はじめ、先輩諸氏とゆっくり話し合える、年に一度の機会でもある。同窓会で級友に会える様な気持ちでその日を鶴首している。



白銀に思いは駆せる……
胸躍る一瞬を演出するスキーウェア
“フェニックス”
FOR THE SAPPORO '72
サツポロは近い。

Bogner
Phenix

日本冬期スポーツ競技用品協会員
フェニックス
スポーツウェアの専門メーカー
東京都中野区中野6-32-4
〒164 (364) 1851 (代)

早慶戦によせて

稲門バドミントンクラブ会長

津 田 信 一

早慶定期戦も第19回目を迎え、両校関係者の日頃の御努力に深く感謝致します。昔に比べ、バドミントンというスポーツが近年急速に脚光を浴びて参りました。最近、日中交流ということ、新聞紙上を賑わしていることは御存知と思います。さてこのような発展途上のバドミントン界に於て、例えば年一回の東京6大学OB定期戦という場をつくり、現役OBだけでなく、諸氏にも活躍して欲しいと希望致す次第です。学生時代に身につけた優秀な技術をさらに磨き、現役にそれを伝え、ひいては、バドミントン界の為に早慶が中心となって、是非実現しようではありませんか。

言うまでもなく、スポーツは勝つか負けるかが一番重要なことです。しかし、その本質は結果的に相手に勝つことではなく、自己に勝つ事であります。実力からして、相手に対し、5点しか取れない者が10点取ったとしたら、その者が勝者であると思います。ですから、1点というのは重大で、実力の優れた者は、油断して1点でも相手に与えてはなりません。実力を向上させるには、実力相応に100パーセントの練習をしていただく進歩しません。120パーセントの練習で一歩前進ということを現役諸君は深く考慮すべきであると思います。第19回定期戦を迎えるに当り、OB諸氏の一層の御奮起を促すと共に、現役のはつらつたるプレーを期待致します。

早慶定期戦に際して

三田バドミントンクラブ会長

吹 野 家 寿 吉

恒例の早慶戦を迎えて所感を述べさせていただきます。毎年一回の定期戦も回を重ねて19回となり又皆様とお逢い出来る事は非常に楽しみです。きくところによると此の定期戦以外にバドミントン界に於て継続的にOB戦の行はれている例はないとの事で、此の定期戦は矢張り特異な意義をもったものと思はれます。これは両校の伝統と歴史的な親密さがその基盤となっている事はもとより更に両部のバドミントンに対する熱意がそれを支えていると思はれます。此の永い歴史の間には種々の変遷もあり初期から永い塾の隆盛期から現在の低迷、早稲田の創立期の苦境時代から現在の開花時へと時代の経過と共にそれぞれの立場は変つてもその間変らずに続けられたのが此の定期戦であります。その間両校とも幾多の名選手を輩出し斯界の発展に幾分かは尽して参つたものと信じております。来年は塾のバドミントン部も1941年にバドミントンクラブとして発足して満30年を迎える事になります。それを機会に此の定期戦とは別に是非其他の大学OBとOB戦を行い、それが将来において各大学共々のOB定期戦が開かれる出発点ともなれば幸いと考えております。此の早慶定期戦が将来共に永く両部と共に発展し、伝統ある定期戦として内容的にも最高のものとなる様切に希望してやみません。

早慶定期戦によせて

早稲田大学社会科学部 45年卒

近 藤 繁

早慶定期戦も回を重ね19回目を迎えました。この長い月日に受け継がれ、育くまれ、流れてきた「スポーツマン・シップ」とその底にあるところの「伝統」は今日もなお、脈々とその流れを湛えています。様々な角度からのアプローチ、理解のしかたなどにより、各自のスポーツ感の中に、非常に広範なる発展性をもって、存在しているようです。言葉自体がとて抽象的だからでしょうか、説明することがとても困難です。早慶のこの競い合いを通じ、何かそれに近いものの存在を知りました。今日も又、この熱戦を繰り広げるであろう日吉のコート内外に、生きていることを知るのではないでしょうか。この素晴らしい雰囲気をつまでも、保ちたいと念願いたします。「勝負」はやはり「勝負」です、ぜひ、悔いのない試合を展開して欲しいと思います。

慶応義塾大学法学部 45年卒

平 井 克 英

日本で最高の大会であるオールジャパンより観客が入る早慶定期戦。ここでは閑古鳥も鳴いてはくれない。不思議な魅力を持つ早慶戦は単なる定期戦に留まらず、いかなる大会に於いても見られない独特の雰囲気があるのは何故でしょうか。それは偏に早慶両校先輩OBがライバルとして互いを鍛練する場として又、友好を建設する場として築き上げてきた伝統の所産と考え、とりもなおさず本来のスポーツのあるべき姿だと確信します。現役諸君は早慶戦の意義を把握し、素晴らしい伝統の担い手として責任と使命を果すべく猛練習の成果と、スポーツマンシップ、そしてフレンドシップを遺憾なく發揮されることを期待しています。卒業して二年目自身も現役に負けないように猛練習(?)を積んでOB戦へ、そして、友好の美酒を飲み交そうではありませんか。最後にこの早慶戦の益々の発展と共に日本のパドミントン界の模範たらんことを祈願します。